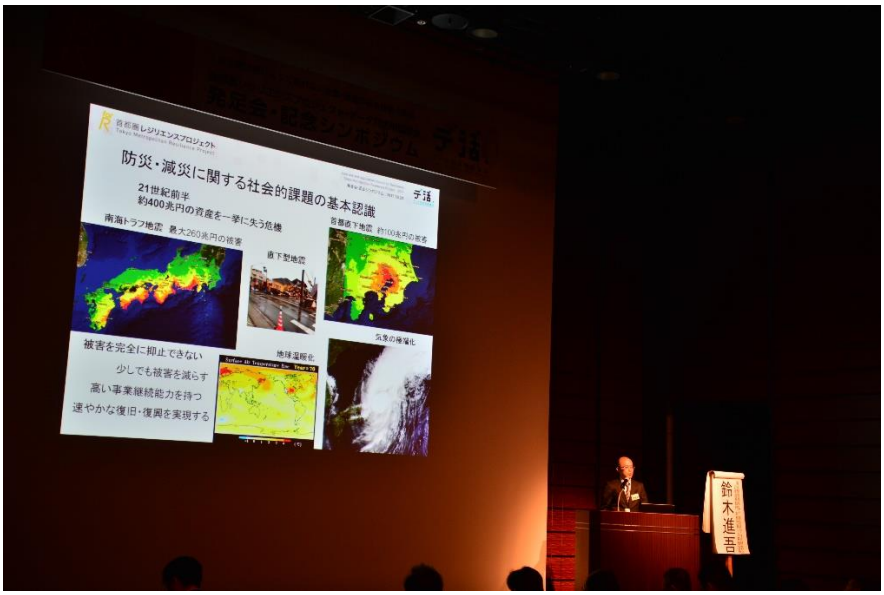
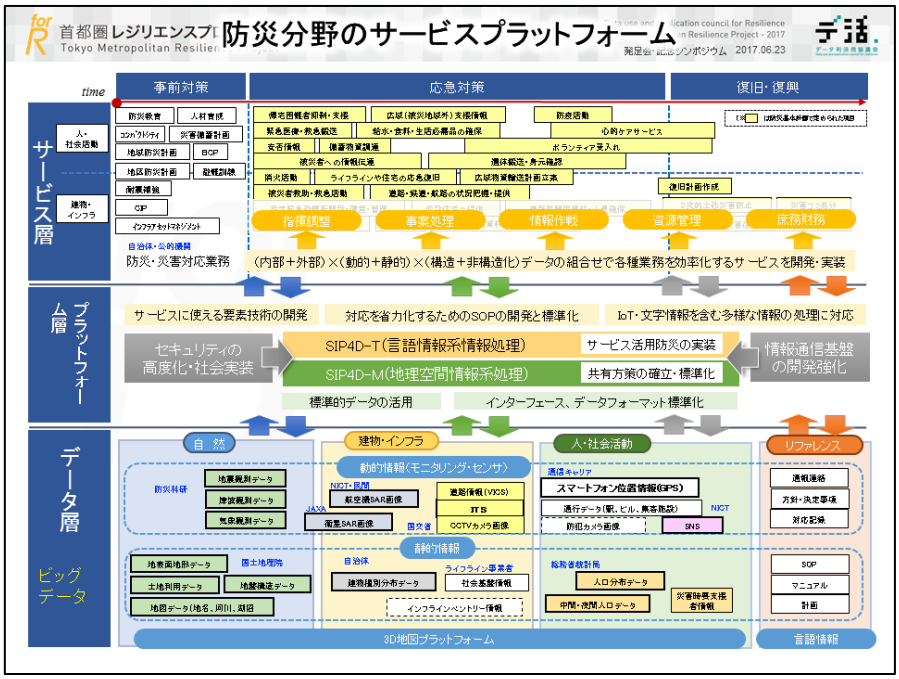
（研究者・民間事業者の発表より）

CSV に貢献する情報サービスプラットフォーム

防災科研　鈴木進吾氏



鈴木氏は防災科学技術研究所が今年度から始めた防災情報サービスプラットフォームの開発について「目指すべき姿として考えている防災情報サービスプラットフォームの全体像は、サービス層、プラットフォーム層、データ層の 3 層構造で構成されている」と説明。防災分野のサービスプラットフォームを考えた場合には、「事前対策」「応急対策」「復旧・復興」と、その対象として人あるいは建物・インフラという枠組みで考えることができ、その中に、防災教育、人材育成、帰宅困難者支援など、さまざまな異なった業務が入ってくると紹介しました。



鈴木氏は、データ層に蓄積されたさまざまなデータを、サービスに応じてプラットフォーム層で加工し提供していくために、内部情報、外部情報、動的情報、静的情報、地図のような構造化された情報から通信文のような非構造化データなど、さまざまなデータを組み合わせて、各種業務を効率化していくサービスを開発・実装していきたいと話しました。